

## 素晴らしい感動をありがとう

～ 名取子どもミュージカルいしかわ公演 ～

### 名取子どもミュージカル事業のきっかけ

2012年3月25日、石川県 PTA 連合会「笑顔プロジェクト」の一行は、震災から1年が過ぎた被災地のある光景を目の当たりにして愕然とし、この石碑に誓いました。



そこには、あの震災で流されて若い命を失った14名の中学生の名前が刻まれていました。関上（ゆりあげ）中学校の PTA 会長は涙ながらに「この子たちは冷たくなってしまったので、みんなで暖める為に石碑をあえて低く作ったんです」と説明され、石川のメンバー全員が大粒の涙を流しました。そして「私たちに出来る事はありますか」と尋ねました。名取市 PTA 会長の赤沼さんが「是非、子供のミュージカルを石川でできないでしょうか」「たくさんのご支援を頂いた恩返しを私たちにさせて下さい」と熱く語られました。「その願いを実現したい。名取のためにも、石川のためにも」そう思って始めたのがこの壮大なプロジェクトのスタートでした。

### ミュージカルの一行到着

実施が決まってからというもの、名取では練習に、石川では受け入れ態勢の準備に忙しい時間が流れました。

そして8月3日、早朝8時前、バスに乗った子ども達がついに本多の森ホールに到着しました。石川のメンバーの中には、子どもたちの乗ったバスを見ただけですでに目に涙を浮かべている人もいました。



今回来県したメンバーは、劇団員が78名、それに実行委員のスタッフを合わせると110名もの大人数です。子どもたちは前の晩からバスに揺られて9時間近く、さすがに疲れの色が見えます。

「出会いのつどい」の中で劇団員の座長が「これまでの支援に感謝しながら、最高の舞台を見てもらえるようにがんばります」と力強く挨拶しました。

## 早くも練習開始

のんびり休む間もなく、早速練習です。「石川の皆さんに最高の舞台を見せるんだ！」そんな山田実行委員長の言葉を子ども達は素直に受け止めて、真剣に練習を始めました。



午後からは本格的にステージでの練習です。本番同様、メイクもします。そのお手伝いとして石川のメンバーがボランティアとして活躍してくれました。



## 宿舎でのひとこま

1日目の宿舎は辰口温泉「たがわ龍泉閣」です。



石野県P連会長が歓迎の挨拶を述べ、なごやかに夕食会が始まりました。その後の温泉は子どもたちに大好評でした。露天風呂ではしゃぎつつも、翌日の本番に備えました。

## 感動の再会

今回のメンバーの中に1年前の「サマーホームステイ」で石川県を訪れた子どもたちが5名含まれています。それを知ったホストファミリーの方が、わざわざ宿舎まで会いに来てくれました。1年ぶりに顔を合わせ、涙を流しての感動の再会となりました。





1年前の思い出を語り合い、旧交を温めました。

### 最終リハーサル

そしていよいよ本番当日です。朝から石川県 PTA 連合会のボランティアの皆さんが会場設営、受付準備、メイキャップと大忙しです。

一方子どもたちは最終リハーサルにいっそう熱が入ります。



谷本石川県知事も子どもたちを励ますために、わざわざ会場に足を運んでくれました。



### そしていよいよ本番

私たちが、気が気でなかったのが集客です。本当にどれだけの人が来てくれるのか心配でした。しかし2時間前から並んでくれる方々をはじめ千人ものお客さんにご来場頂きました。





本番が始まりました。素晴らしい舞台でした。とても子どもと思えない演技、そして歌と踊り。中にはこんなコメントを寄せる小学3年生もいました。「家も思い出もなくなりました。でもたくさんの支援を頂いた皆さんに恩返しがしたいので一所懸命演じる。」その言葉通り、見る人すべてが心を震わせる感動の舞台でした。



最後のカーテンコールでは涙を流す子どももいて、それを見ているお客さんも涙、それを見た子ども達も涙といった感動のフィナーレになりました。

金沢ティーンズミュージカルの団員たちが応援に駆けつけてくれ、花束を贈呈しました。また、最後にはステージで一緒にテーマ曲「一人じゃないから」を歌いました。



公演終了後子ども達がホールのロビーに整列して、お客様を送り出している時も抱き合って涙でした。あの震災で傷ついた被災地の皆さんに元気になってもらう目的で始めましたが、その一助になれたと確信した瞬間でした。



多くの方がメッセージボードにミュージカルの感想や励ましの言葉を書いてくれました。そのボードの前で、最後のミーティングをしました。



## 花火大会観覧

公演終了後北國新聞社さんのご協力で、川北の花火大会を見ました。

「こんなに間近でしかも寝転がって見る花火は生まれて初めて、今後もないだろう。」と山田実行委員長も大感激です。

サプライズは宮城から来られていた花火師の紹介の後、会場全体に流れたアナウンスです。「今日は宮城から名取こどもミュージカルのご一行様も会場に来ています」これには一同びっくり。さらにミュージカルの公演で歌ったあの曲が流れ始めました。子ども達は全員立ち上がって大きな声で歌いました。再び感動で胸が震えました。



興奮冷めやらぬうちに宿泊の粟津温泉へ。「のとや」さんのご厚意で今日も温泉ということで、子ども達はほんとうに長い、長〜い一日の疲れをようやく癒すことができました。

## 金沢 21 世紀美術館見学

翌日曜日は金沢 21 世紀美術館を見学しました。



## お別れ昼食会

兼見御亭のご協力でお別れ昼食会を開きました。



子ども達の笑顔、随員のスタッフの涙、そして数多くの感動体験は、この事業をやってよかったと改めて感じた瞬間でした。





大きな紙にミュージカル出演の子どもたちからメッセージを書いてもらいました。どの子のメッセージにも感謝と感動の言葉があふれています。子どもたちにとってきっと一生忘れることのできない貴重な体験になったに違いありません。

最後になりましたが、多くの皆様のおかげでこの事業を成し遂げることができました。なにより大変だった資金面でご協賛頂いた県内の企業及びPTAの皆様、当日のスタッフとしてご尽力くださった石川県のプロスタッフと石川県PTA連合会の仲間の皆様、会場に足を運びミュージカルをご覧下さった全ての方々、ほんとうにありがとうございました。

夢のような話を勇気をもって実行に移して下さった名取市の山田実行委員長はじめ関係者の皆さんと、遠く石川県に子どもさんを送り出してくださった保護者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

そして誰よりも一番主役と呼びたいのは子ども達です。あの震災で絶望の淵から立ち直り立派に演じた彼、彼女達に大きな拍手を送ります。そして「すばらしい感動をありがとう」と心からの賛辞を捧げます。

私たちの宝物です。名取のみんなありがとう

